

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/13

ユーロ圏財務相会合への思惑に注目

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	<p>下値模索も財務相会合を前に買い戻しも</p> <p>予想レンジ: 113.70 ~ 117.60 円</p>	2-3
ユーロ/ドル	➡	<p>欧利上げ打ち止め観測VS米景気後退懸念</p> <p>予想レンジ: 1.4170 ~ 1.4540 ドル</p>	4-5
ポンド/円	↘	<p>下ブレ懸念も</p> <p>予想レンジ: 128.00 ~ 133.00 円</p>	6-7
ポンド/ドル	↘	<p>英米経済指標ラッシュで綱引き相場に</p> <p>予想レンジ: 1.6050 ~ 1.6500 ドル</p>	8-9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 6/6～10までの主な推移



6/7 Tuesday	中国の為替当局者が「ドルは他の主要通貨に対して下落を続けるだろう」と発言した事が材料視され、対ドルでユーロ高が進むと、ユーロ/円も上昇し117.88円の高値を付けた。(①)しかし、その後、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が足元の景気減速に触れつつも、量的緩和第2弾終了後の追加緩和(QE3)には言及しなかった事を受けてNYダウ平均株価が下げに転じると、ユーロ/円も売り優勢となった。
6/9 Thursday	欧州中銀(ECB)は予想通り政策金利を現行の1.25%に据え置き、その後のトリシェ総裁の会見でインフレリスクに対して「強い警戒」との文言を使い7月の利上げを示唆した。ユーロ/円は発表直後こそ上昇したものの、7月の利上げはほぼ織り込み済みとの見方から急反落し、115.90円の安値まで売り込まれた。同時に発表されたユーロ圏の経済見通しで2012年のインフレ率予測が3月時点の予想から下方修正された事や、トリシェ総裁が会見で「強いドルを支持する」などと発言した事もユーロ売り材料となった。(②)
6/10 Friday	7月以降のECBの利上げピッチが鈍るとの見方から、独国債利回りが低下した一方で、ギリシャの債務問題への対処をめぐる不透明感から、同国をはじめとする欧州高債務国の国債利回りが上昇した事を背景にユーロが下落。その後も、世界的な景気減速懸念を背景に、NYダウ平均株価が12000ドルの大台を割り込んで下落した事や、サウジアラビアによる原油増産の報道を受けて、原油先物価格が大幅に下落した事などを理由にユーロ売りが続き、ユーロ/円は114.94円の安値を付けた。(③)

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は114.94円～117.88円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約1.8%の下落（ユーロ安・円高）となった。9日に行われた欧州中銀（ECB）理事会後のトリシェ総裁の会見を受けて、7月以降の利上げピッチが鈍るとの思惑が強まっており、ユーロの下落要因となった。足元で再び原油価格が下落傾向を強めている事もユーロの重しとなりそうだ。ただ、ユーロ圏では、来週20日に行われるユーロ圏財務相会合に向けて、14日にはユーロ圏財務相らが事前会合を開くと伝えられており、ギリシャ問題が中心議題となる見通しだ。これらの会合で、ギリシャ支援をめぐる一定の合意が得られれば、ユーロが買い戻される可能性があるため、急激にユーロ安が進行する事も考えにくい。今週のユーロ/円相場は、底値を探りつつも底堅い展開が予想される。（神田）

（予想レンジ：113.70～117.60円）

テクニカル分析



●ユーロ/円 6/10週足引値：115.20円（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）ユーロ/円は、88.93円（2000/10安値）から169.95円（2008/07高値）へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円（8/24）を安値、115.97円（3/04）を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇して以降は揉み合い推移となっている。先週のユーロ/円は6/07に高値117.88円を見たが、その後は揉み合いの方向感のない展開となった。取引値は20日線（116.09円、6/10）、60日線（117.58円、6/10）を下回っているが、200日線（113.62円、6/10）よりも上値に水準にある。ボリンジャーバンドは6/10現在、上限：117.87円～下限：114.31円で、バンド上限は横這い、下限はやや上昇でバンド幅は縮小している。5月末から6月初旬に買い進んだが、それがうまく行かずには下落してきた。目先、下落方向となりそうであるが、200日線（113.62円）などで下値支持されやすいと考える。上値ポイントは、①117.59円（5/6高値）、②117.88円（6/07高値）、③118.49円（4/29安値）、④121.81円（4/28高値）、下値ポイントは①113.87円（5/23安値）、②113.62円（200日線、6/10段階）、③113.39円（5/16安値）、④112.87円（106.40-123.33円の61.8%戻し）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 6/6~10までの主な推移



<p>6/7 Tuesday</p>	<p>中国の為替当局者が「ドルは他の主要通貨に対して下落を続けるだろう」と発言した事やユーロ圏4月小売上高が前月比+0.9%、前年比+1.1%と予想(前月比+0.3%、前年比±0.0%)を大きく上回った事を受けてユーロ/ドルは1.4696ドルの高値を付けた。(①)しかし、その後、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が足元の景気減速に触れつつも、量的緩和第2弾終了後の追加緩和(QE3)には言及しなかった事を受けてNYダウ平均株価が下げに転じると、ユーロ/ドルも弱含んだ。</p>
<p>6/8 Wednesday</p>	<p>独4月鉱工業生産が前月比-0.6%と予想(+0.2%)に反して減少した事や、一部通信社が関係筋の話として「ギリシャの新救済策は深刻な障害に直面しており、依然として十分な合意には至っていない」と伝えた事を受けてユーロ/ドルは1.4563ドルまで下落した。(②)</p>
<p>6/9 Thursday</p>	<p>欧州中銀(ECB)は予想通り政策金利を現行の1.25%に据え置き、その後のトリシェ総裁の会見でインフレリスクに対して「強い警戒」との文言を使い7月の利上げを示唆した。ユーロ/ドルは発表直後こそ上昇したものの、7月の利上げはほぼ織り込み済みとの見方から急反落し、1.4476ドルまで売り込まれた。同時に発表されたユーロ圏の経済見通しで2012年のインフレ率予測が3月時点の予想から下方修正された事や、トリシェ総裁が会見で「強いドルを支持する」などと発言した事もユーロ売り材料となった。(③)</p>
<p>6/10 Friday</p>	<p>7月以降のECBの利上げピッチが鈍るとの見方から、独国債利回りが低下した一方で、ギリシャの債務問題への対処をめぐる不透明感から、同国をはじめとする欧州高債務国の国債利回りが上昇した事を背景にユーロが下落。その後も、世界的な景気減速懸念を背景に、NYダウ平均株価が12000ドルの大台を割り込んで下落した事や、サウジアラビアによる原油増産の報道を受けて、原油先物価格が大幅に下落した事などを理由にユーロ売りが続き、ユーロ/ドルは1.4321ドルの安値を付けた。(④)</p>

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4321~1.4696ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.9%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。今週は、14日にユーロ圏財務相が会合を開き、20日の正式会合に向けて、ギリシャ問題や欧州全体の債務問題について協議することが明らかになった。先週10日にはドイツ連邦議会が、民間投資家の関与などを条件とするギリシャ追加支援を支持する決議案を採択した一方で、欧州中銀(ECB)は民間投資家の関与に否定的な見方を示すなど、ギリシャ問題をめぐる足並みの乱れがユーロ売り材料となっただけに、14日の事前会合でギリシャ支援に関する一定の合意が得られれば、ユーロが買い戻される可能性もある。先週は、ECBによる7月以降の利上げピッチが鈍るとの思惑からユーロ安が進んだが、米国景気の減速懸念も根強く、今後一方的にユーロ安・ドル高が進む事は考えにくい。今週のユーロ/ドル相場は下値を探りつつも底堅い値動きが予想される。(神田)

(予想レンジ:1.4170~1.4540ドル)

テクニカル分析



●ユーロ/ドル 6/10週足引値: 1.4348(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒5/04高値1.4940⇒5/23安値1.3968⇒6/17高値1.4696となっている。現状の取引値は20日線(1.4330、6/10)と交錯し、60日線(1.4372、6/10)よりも下値に位置し、200日線(1.3786、6/10)よりも上値に位置している。ボリンジャーバンドは6/10現在、上限: 1.4714~下限: 1.3947であり、ボリンジャーバンドの上限は横這い、下限は上向きで推移している。60日線(1.4372)を切れつつあるが、どこまで深くなるのか見定めにくく、1.4150~1.46での空中戦のような展開を予想。移動平均線を見るとまだ上昇相場だと思うが、90日線(1.4171、6/10時点)を割り込む下落が何日に続くようであれば、下向きに力がかかりそうであり、考え直したいところ。上値ポイントは①1.4537(5日線、6/10段階)、②1.4696(6/07高値)、③1.4940(5/04高値)。下値ポイントは①1.4250、②1.4171(90日線、6/10段階)、③1.3907(1.2873-1.4940、今年の安値-高値の50%)【最重要】である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 6/6~10の主な推移



6/6 Monday	朝方にドル/円が上昇すると、ポンド/円は132.26円まで連れ高となった(①)。しかし夕方、欧州株や原油先物の軟調地合いや、ギリシャの追加支援についての不安が広がり、ユーロ/円が下落したことを受け、ポンド/円は下落。NY市場に入るとNYダウの下げを受けて一段安となった。
6/7 Tuesday	東京市場午後から時間外のNYダウ先物が上昇したことを背景にポンド/円は上昇。さらに、ユーロ圏4月小売売上高が良好だったこと等を受けてユーロ/円が値を伸ばすと、ポンド/円も連れ高となり、一時132円台に乗せた(②)。
6/8 Wednesday	夕方、格付け会社ムーディーズが「英国は弱い経済成長や財政改善の遅れによってAaa格付けを失う可能性がある」との見解を示すとポンドは急落。その後、同社が「英国の格下げは我々の中心シナリオではない」と発表するとポンドは下げ止まったが、独経済指標が予想を下回り、ユーロ/円が値を下げたことを受け、ポンド/円は130.48円まで下落した(③)。
6/9 Thursday	欧州勢が原油先物の上昇をはやしてポンド買いで参入すると、ポンド/円は131.95円まで上昇した。しかし、132円手前で上値が重く、すぐに上げ幅を縮小。さらに、欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁の発言を受けてユーロ/円が急落すると、ポンド/円も連れて下げ幅を拡大する展開となった(④)。なお、この日はイングランド銀行(BOE)が金融政策委員会を行ったが、市場予想通りの金融政策据え置きとなったことから、材料視されなかった。
6/10 Friday	上海株安を背景にポンド/円は下落。さらに、17時30分発表の英経済指標について、事前に「鉱工業生産は前月比-4.5%になる」との噂が流れたことでポンドは下げ幅を拡大した。発表された英4月鉱工業生産は同-1.7%と噂ほど悪い結果でなかったことから、瞬間的に129.72円の安値を付けた後は反発したが、NY市場では原油安や株安を背景に上値を抑えられた(⑤)。

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

今週は主要国株価と英国の主要経済指標結果が主な手掛かりとなってこよう。

英国の14日発表の5月消費者物価指数、15日発表の5月雇用統計、16日の5月小売売上高指数は、同国のインフレと経済の弱さの双方に強い懸念が広がる中ではどれも注目されよう。ただ、英金融政策委員会(MPC)で最もタカ派だったセンチンス委員が5月末で退任したことで、MPCのタカ派の勢いがやや弱まっていることから、物価が予想より上ブレした場合の早期利上げ期待の高まりなどはある程度抑制され、当面はこれまで程大幅なポンド高要因にはならない可能性がある。また、チャートを見ると、依然としてジリ安基調の最中であることが分かる。何かのきっかけで下げが加速する可能性は常に意識しておきたいところだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 128.00~133.00円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/円 6/10週足引値: 130.22円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ポンド/円は118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。上記上昇幅のどこまでを下押すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的には依然として下落の流れのように見える。ポンド/円は4/08に高値140.00円をつけてからもみ合いながら下落推移している。現状では、200日線(131.85円、6/10)、20日線(132.20円、6/10)、60日線(133.55円、6/10)をいずれも下回って推移している。ボリンジャーバンドは6/10現在、上限: 134.21円~下限: 130.20円であり、バンド上限はやや上昇、下限は取引値が押し下げる方向で推移している。5/31に高値135.11円を見た後、下落で移している。130~133円での揉み合いかと思われたが、いつの間にか下向きに推移している。ややもすると130円割れ方向に勢いがかかる動きになりかねず、警戒をすべきところ。上値ポイントは①132.20円(20日線、6/10段階)、②133.55円(60日線、6/10段階)、③134.21円(ボリンジャーバンド上限、6/10段階)であり、下値ポイントは①130.20円(ボリンジャーバンド下限、6/10段階)、②129.50円(122.98円-140.00円の61.8%戻し)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 6/6~10の主な推移



6/7 Tuesday	東京市場午後から時間外のNYダウ先物が上昇したことを背景にポンド/ドルは上昇。さらに、中国為替当局者が「ドルは他の主要通貨に対して下落を続けるだろう」と発言したことで全般的にドルが売られたこともポンド/ドルの上昇要因となり、1.6469ドルの高値をつけた(①)。
6/8 Wednesday	夕方、格付け会社ムーディーズが「英国は弱い経済成長や財政改善の遅れによってAaa格付けを失う可能性がある」との見解を示すとポンドは急落。しかしその後、同社が「英国の格下げは我々の中心シナリオではない」と発表するとポンドは下げ止まった(②)。
6/9 Thursday	欧州勢が原油先物の上昇をはやしてポンド買いで参入すると、ポンド/ドルは1.6463ドルまで上昇した。しかし、1.6460ドル台では上値が重く、上げ幅を縮小。さらに、欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁の発言を受けてユーロ/ドルが急落すると、ポンド/ドルも連れて下げ幅を拡大する展開となった(③)。なお、この日はイングランド銀行(BOE)が金融政策委員会を行ったが、市場予想通りの金融政策据え置きとなったことから、材料視されなかった。
6/10 Friday	上海株の軟調ぶりを背景にポンド/ドルは下落。さらに、17時30分発表の英経済指標について、事前に「鋳工業生産は前月比-4.5%になる」との噂が流れたことでポンドは下げ幅を拡大した。ただ、発表された英4月鋳工業生産は同-1.7%と、噂ほど悪い結果でなかったことから、瞬間的に1.6211ドルの安値を付けた(④)後は反発したが、サウジアラビアが来月から産油量を拡大するとの報道を受けて原油価格が大幅に下落したことや、NYダウ平均が大幅に下落したことを背景にリスク回避ムードが強まると、ポンド/ドルは再び1.62ドル台前半まで値を沈めた。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週は英米共に経済指標発表が多い。各経済指標結果の強弱を受けて、ポンドとドルが綱引きする展開になるだろう。ただ、量的緩和と金融引き締めを睨んで一旦様子見の態度を見せている米国に対して、インフレ懸念の深刻化と経済そのものの弱さによって金融政策を動かすことができない状況が長期化している英国では悲観的な見方が広がりやすく、英経済指標が英経済の状況の深刻化を示唆すれば、ポンドが大幅に売られると考えられる。

また、引き続き株や原油価格の動向に連れられるとみられる他、ギリシャなど欧州重債務国に関する観測報道によってユーロ/ドルが上下に大きく動けば、ポンドも連れて動くとみる。併せて注目したい。(ジェルベズ)
(予想レンジ:1.6050~1.6500ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 6/10週足引値:1.6223(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

4/28に直近高値1.6744を見て後、5/24には1.6056まで下落し、5/31には1.6544まで上昇した後、下落推移となっている。取引値は20日線1.6318(6/10)や60日線1.6324(6/10)を下回ってきている。200日線1.5995(6/10)はまだ下値水準にある。また、ボリンジャーバンドは6/10現在、上限:1.6544~下限:1.6093であり、バンド幅の上限は横ばいからやや上向き、下限は横ばいになってきている。5/31高値1.6544から下落推移だが、もみ合いの中で下向きに力が加かっている印象だ。1.60~1.65のレンジの中での推移、ポジションが傾いた方の逆に動く印象。目先の上値ポイントは①1.6544(5/31高値)、②1.6544(ボリンジャーバンド上限、6/10段階)、③1.6744(4/28高値)、であり、下値ポイントは、①1.6093(ボリンジャーバンド下限、6/10段階)、②1.6056(5/24安値)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/13~15)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/13	—		シドニー休場(女王誕生日)、チューリッヒ休場(聖霊降臨節の振替休日)		
(月)	8:50		(日) 4月機械受注 [前月比]	+2.9%	+2.3%
			(日) 4月機械受注 [前年比]	+6.8%	+5.0%
6/14	未定	◎	(日) 日銀金融政策決定会合	—	—
(火)	11:00	○	(中) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.8%	+6.5%
	11:00	○	(中) 5月消費者物価指数 [前年比]	+5.3%	+5.5%
	11:00	○	(中) 5月小売売上高 [前年比]	+17.1%	+17.0%
	11:00	○	(中) 5月鉱工業生産 [前年比]	+13.4%	+16.9%
	13:30		(日) 4月鉱工業生産・確報 [前月比]	+1.0%	—
			(日) 4月鉱工業生産・確報 [前年比]	-14.0%	—
	17:30	◎	(英) 5月消費者物価指数 [前月比]	+1.0%	+0.2%
		◎	(英) 5月消費者物価指数 [前年比]	+4.5%	+4.4%
	17:30	○	(英) 5月小売物価指数 [前月比]	+0.8%	+0.4%
	21:30	○	(米) 5月生産者物価指数 [前月比]	+0.8%	±0.0%
		○	(米) 5月生産者物価指数 [コア:前月比]	+0.3%	+0.2%
		○	(米) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.8%	+6.6%
		○	(米) 5月生産者物価指数 [コア:前年比]	+2.1%	+2.1%
	21:30	◎	(米) 5月小売売上高 [前月比]	+0.5%	-0.4%
		◎	(米) 5月小売売上高 [前月比:除自動車]	+0.6%	+0.3%
	21:30		(加) 第1四半期設備稼働率	76.4%	—
	23:00		(米) 4月企業在庫 [前月比]	+1.1%	+0.8%
6/15	14:00		金融経済月報・基本的見解(日銀)	—	—
(水)	17:30	◎	(英) 5月失業保険申請件数	+1.24万件	+0.52万件
	17:30	◎	(英) 5月失業率	4.6%	4.6%
	18:00		(ユーロ圏) 4月鉱工業生産・季調済 [前月比]	±0.0%	+0.1%
	20:00		(南ア) 4月実質小売売上高 [前年比]	+5.1%	+4.9%
	21:30	◎	(米) 5月消費者物価指数 [前月比]	+0.4%	+0.1%
		◎	(米) 5月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.2%	+0.2%
		◎	(米) 5月消費者物価指数 [前年比]	+3.2%	+3.3%
		◎	(米) 5月消費者物価指数 [コア:前年比]	+1.3%	+1.4%
	21:30	○	(米) 6月ニューヨーク連銀製造業景気指数	11.88	13.50
	22:00	○	(米) 4月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+1160億USD	—
		○	(米) 4月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+240億USD	—
	22:15	○	(米) 5月鉱工業生産 [前月比]	±0.0%	+0.3%
	22:15		(米) 5月設備稼働率	76.9%	77.1%
	23:00		(米) 6月NAHB住宅市場指数	16	16

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/16~17)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/16			ヨハネスブルグ休場(青年の日)		
(木)	07:45		(NZ) 第1四半期製造業売上高 [前期比]	+3.1%	—
	16:15		(スイス) 第1四半期鉱工業生産 [前年比]	+6.1%	+5.8%
	16:30	○	(スイス) スイス中銀政策金利発表	0.25%	—
	17:30	○	(英) 5月小売売上高指数 [前月比]	+1.2%	—
		○	(英) 5月小売売上高指数 [前年比]	+2.7%	—
	18:00		(ユーロ圏) 5月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.7%	+2.7%
	21:30	◎	(米) 6/11までの週の新規失業保険申請件数	42.7万件	—
	21:30	◎	(米) 5月住宅着工件数	52.3万件	54.0万件
	21:30		(米) 5月建設許可件数	56.3万件	55.3万件
	21:30		(米) 第1四半期経常収支	-1133億USD	-1260億USD
	23:00	◎	(米) 6月フィラデルフィア連銀景況指数	3.9	7.0
6/17	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (5月19・20日分)	—	—
(金)	18:00		(ユーロ圏) 4月建設支出 [前月比]	-0.3%	—
	18:00		(ユーロ圏) 4月貿易収支	+28億EUR	-21億EUR
	21:30		(加) 4月卸売売上高 [前月比]	+0.1%	—
	22:55	◎	(米) 6月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	74.3	74.5
	23:00		(米) 5月景気先行指数 [前月比]	-0.3%	+0.2%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com